



## 通信

HP 学校だより  
R6. 5. 30  
NO. 10  
文責 伊藤美佳



### 人の話を聞くことから話し合いは始まる

28日（火）に、愛知教育大学の加納先生をお迎えして、授業研究会を行いました。

3年2組の国語科の授業では、自分の書いた説明文を友達に読んでもらい、そのアドバイスを聞いて自分の文章を見直すという場面を参観しました。今回の説明文は「自分は〇〇な人」であるというものです。子どもたちは、「自分はどんな人だろう」と自分と向き合い、「自分は〇〇な人だ」と決め、その具体的なエピソードを書きます。今回の授業では「〇〇な人」を説明するのに「ふさわしい」エピソードかどうか見直していました。自分の説明文を分かりやすくするためには、友達のアドバイスはとても重要です。グループでの話し合いでは、グループの中で、自分以外の人の説明文について付箋に意見を書き、交換しながら意見を伝えていました。友達の言ってくれる意見を「あ、確かに」「なるほど」など、相づちを打ちながら聞いている姿がそこかしこに見られました。「こうした方がいいよ。」「これは、関係ないと思う」など、自分を否定されていると感じるような意見も「ありがとう」と言いながら聞き入れている姿が印象的でした。人の意見を一度聞き入れた上で、自分はこうすると決められることで、よりよい説明文になることでしょう。この学びの姿勢は、すべての学びに当てはまります。

話し合うためには、自分の意見をもつことも大切です。その上で、人の意見を聞き、よりよい解（最適解）を見つけるために話し合いの土俵にのれることを豊坂っ子に期待したいです。「聞く力」は大人になってもとても大切な力です。

### 不審者対応訓練で感じたこと

29日（水）の5時間目に不審者対応訓練を行いました。

5年ぶりに教室に不審者が入り、教職員が対応して子どもたちを逃がすという訓練を実施しました。子どもたちの中には、訓練を少し軽く考えている様子の子もいました。それはとても残念でした。「自分の身は自分で守る」ための訓練は、常に真剣に取り組み、いざというときに正しい判断ができるようになってほしいと思います。多くの方がパニックになり、その結果で命を落とすこともあります。豊坂っ子がそんなことのないように訓練の大切さを伝えていきます。

### 「あこがれ」豊坂っ子

- 先週、豊坂保育園の年長の子どもたちが、ビオトープにお弁当をもって遊びに来てくれました。帰る時に、保育園の先生が「ビワの種をもらっていいですか」と尋ねられたので、理由を聞いてみると「保育園の子どもたちが豊坂小学校のビオトープにあこがれているので、持って帰って植えたいと言っています」と教えてくださいました。ビオトープのビワの種を介して、豊坂保育園にも「あこがれ」の輪が広がりそうです。
- 不審者対応訓練で、静かに移動し、下の学年の子たちを先に逃がしてあげることができた高学年の子たちに「あこがれ」ました。緊急の場合こそ、指示をしっかりと聞いて、冷静に判断できることが大切です。